

# 論壇

貧しい若者が小遣い稼ぎ

先日読んだある新聞記事に、偽ニュースについての興味深い記事が載っていた。偽ニュースとは、トランプ大統領がフエイクニュースとしてしばしば発言して、よく使われるようになった言葉だ。要するにネット上に流れている信ぴょう性が疑わしいニュースのことだ。人々も半分疑ってそうしたニュース記事を読むことが多いだろうが、少なくとも多くの人がそうした記事を読むので、社会的にはそれなりの影響が及ぶこともある。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

驚いたことにマケドニアの貧しい人の中に、そうした記事を書く人が何人もいるというのだ。マケドニアは東欧の貧しい国である。その住民で所得も低い人が数万人の小金を稼ぐため、一生懸命、偽ニュースの制作に励んでいるというのだ。「ヒラリー候補が・・・」

## 国境を越える偽ニュース

「だった」とか、「ロシアで・・・が起きている」といった、いざれも全くなのでち上げのニュースなのだ。そうしたニュースを載せるサイトがいくつもあった、そこに投稿された偽ニュースが読まれれば、報酬が偽ニュースを作成した貧乏な若者にアルバイト料として支払

ピューティング、AI(人工知能)、スマホなどの情報システムが高度化かつ低価格化していく中で、正しい情報も悪意のある操作情報も、簡単に国境を越えて世界中に広まってしまおう。

### 脆弱なセキュリティ

先週の週末、世界は大規模なサイバー攻撃にさらされた。日本ではこれまでのところ大きな被害の報告はなかったようだが、海外では工場やインフラの稼働に大きな支障があった事例が報告されている。どのような集団がこうしたサイバーテロを行っているのかはわからないが、片言の英語しか話せないようなマケドニアの若者が世界中に偽ニュースを流すことができる時代である。小金を稼ぐために世界のどこかにサイバー攻撃に励んでいる若者がいてもおかしくない。もちろん、大規模なサイバー攻撃に国家組織が絡んでいるケースも少なくないというのが大方の見方だろう。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。